



証券コード
6918

 **AVAL DATA CORPORATION**

A'VALue+

株式会社アバールデータ 株主懇談会

2017年 6月 23日



証券コード
6918

 **AVAL DATA CORPORATION**

1. 2018年3月期 業績予想

[期間：2017年4月1日～2018年 3月31日]

● 連結決算

① アバール長崎は1Qのみ連結対象

アバール長崎	1Q			
アバールデータ	1Q	2Q	3Q	4Q

② 純利益への影響 株式譲渡益にともなう税負担を2Qで計上

● 個別決算

① 株式譲渡益（特別利益）約930百万円を2Qで計上

● 2019年3月期からは個別決算となります。

2017年5月16日に適時開示した「子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」の株式譲渡が行われることを前提にしております。

平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

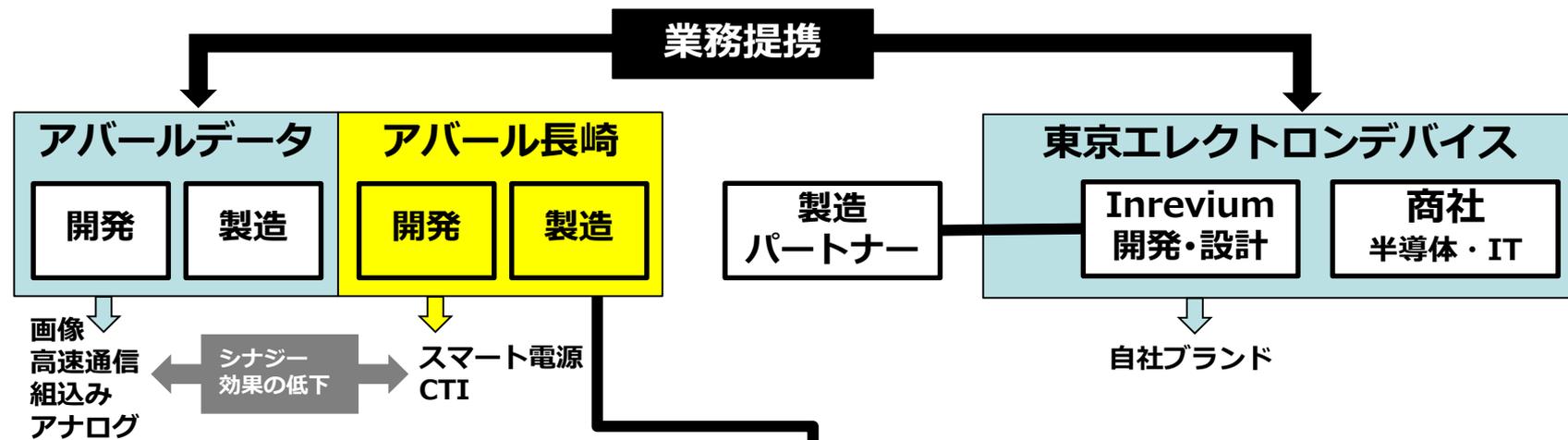
(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,380	△5.4	415	25.8	425	22.6	20	△91.6	3.33
通期	6,280	△19.5	825	△9.0	845	△9.5	315	△54.1	52.39

平成30年3月期の個別業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

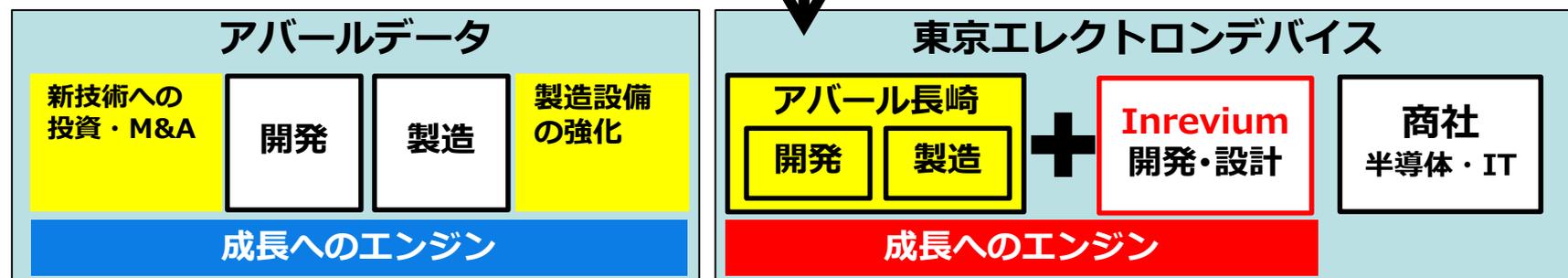
(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,850	19.9	415	64.6	820	186.6	1,230	472.1	204.55
通期	5,750	6.6	825	16.0	1,240	64.4	1,525	157.2	253.61



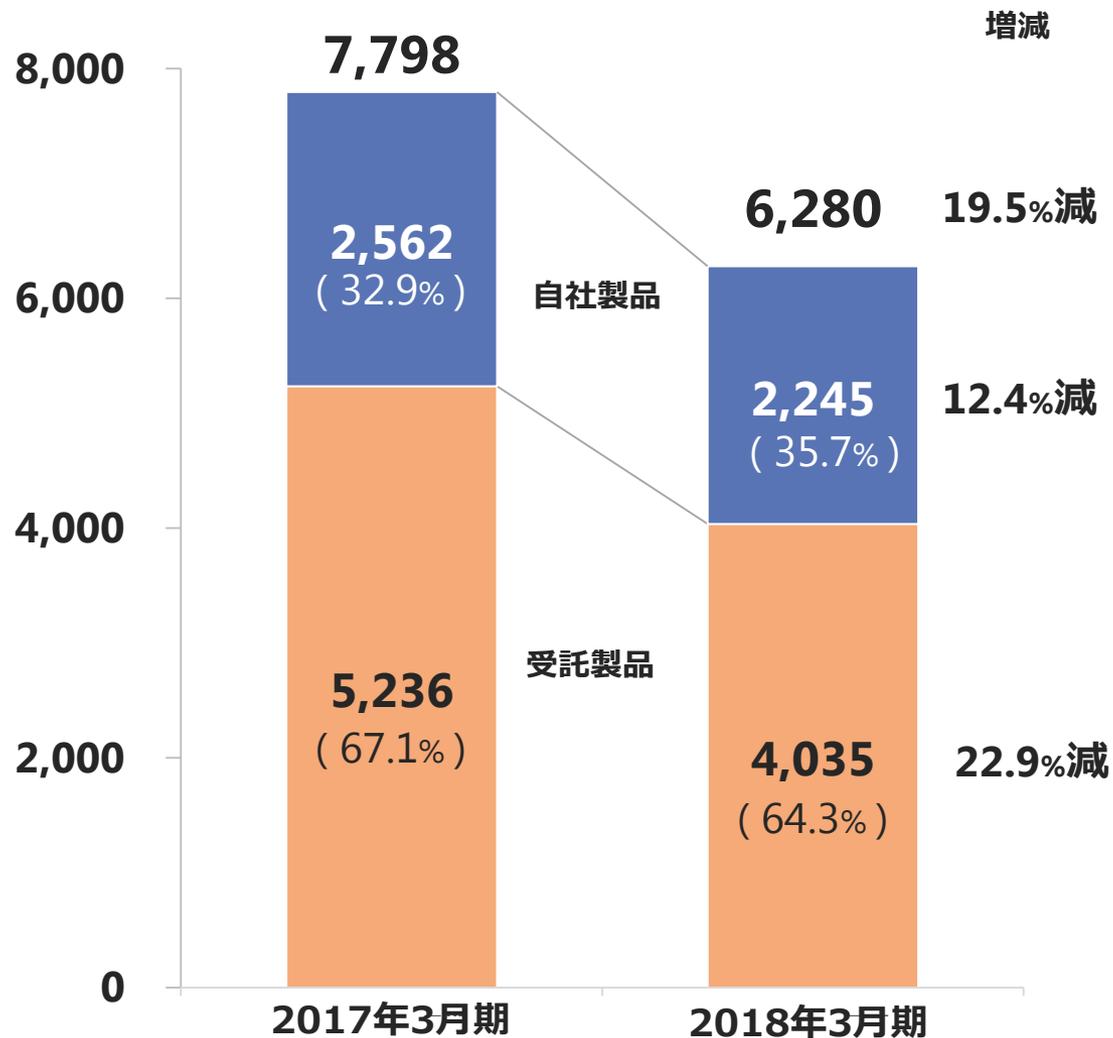
課題：資本の再構築による選択／集中

課題：自社ブランド事業の拡大



連結

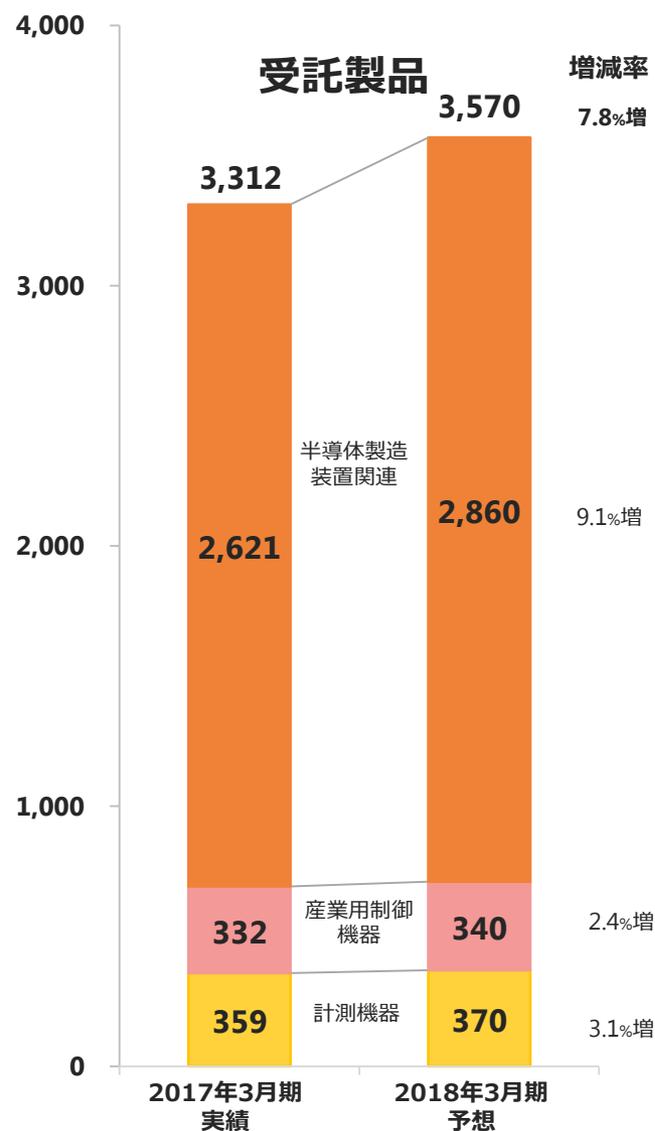
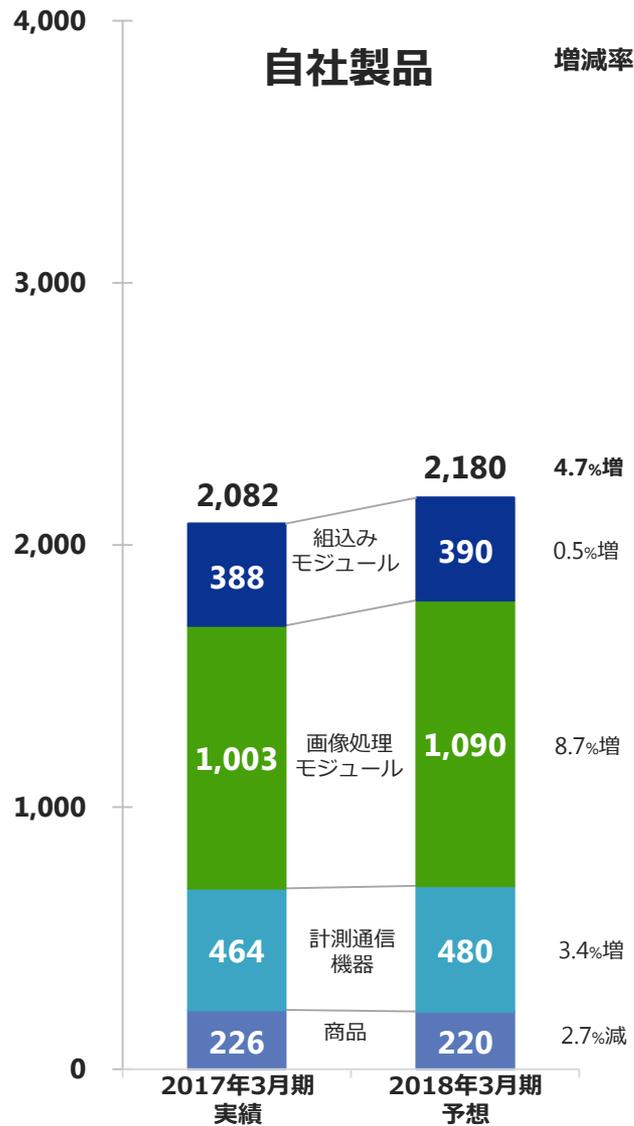
グラフ内の()はセグメント別
売上の構成比



連結

セグメント	品目	2018年3月期 中間		2018年3月期 通期	
		売上	前年同期 増減率	売上	前年同期 増減率
自社製品	組込みモジュール	180	▲14.2%	390	1.0%
	画像処理モジュール	540	27.7%	1,090	9.2%
	計測通信機器	300	▲22.9%	540	▲42.4%
	自社製品関連商品	105	▲6.6%	225	▲6.3%
	小計	1,125	▲0.8%	2,245	▲12.4%
受託製品	半導体製造装置関連	1,700	14.3%	3,100	▲10.2%
	産業用制御機器	255	▲45.4%	435	▲49.4%
	計測機器	300	▲38.2%	500	▲45.9%
	小計	2,255	▲7.6%	4,035	▲22.9%
	売上合計	3,380	▲5.4%	6,280	▲19.5%
	営業利益	415	25.8%	825	▲9.0%
	経常利益	425	22.6%	845	▲9.5%
	親会社株主に帰属する当期純利益	20	▲91.6%	315	▲54.1%

個別



個別

セグメント	品目	2018年3月期 中間		2018年3月期 通期	
		売上	前年同期 増減率	売上	前年同期 増減率
自社製品	組込みモジュール	180	▲ 14.6%	390	0.5%
	画像処理モジュール	540	26.2%	1,090	8.7%
	計測通信機器	240	0.6%	480	3.4%
	自社製品関連商品	100	▲ 3.1%	220	▲ 2.8%
	小計	1,060	8.1%	2,180	4.7%
受託製品	半導体製造装置関連	1,460	35.2%	2,860	9.1%
	産業用制御機器	160	5.9%	340	2.4%
	計測機器	170	2.1%	370	3.2%
	小計	1,790	28.1%	3,570	7.8%
	売上合計	2,850	19.9%	5,750	6.6%
	営業利益	415	64.6%	825	16.0%
	経常利益	820	186.6%	1,240	64.4%
	当期純利益	1,230	472.1%	1,525	157.2%

2. 今後の展開

SaaS

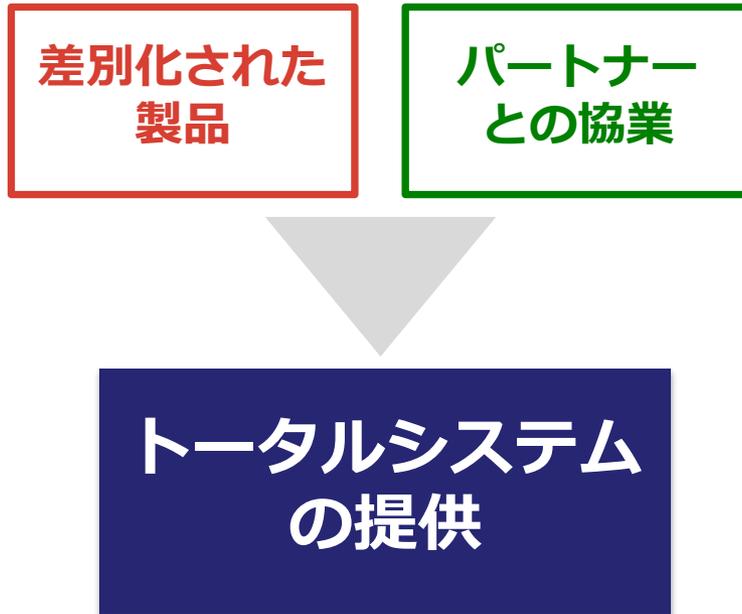
simple and speed

すべてにおいてシンプルに そして 迅速に

S a S

simple and speed

すべてにおいてシンプルに そして 迅速に



新分野への挑戦

主力分野



65% → 55%

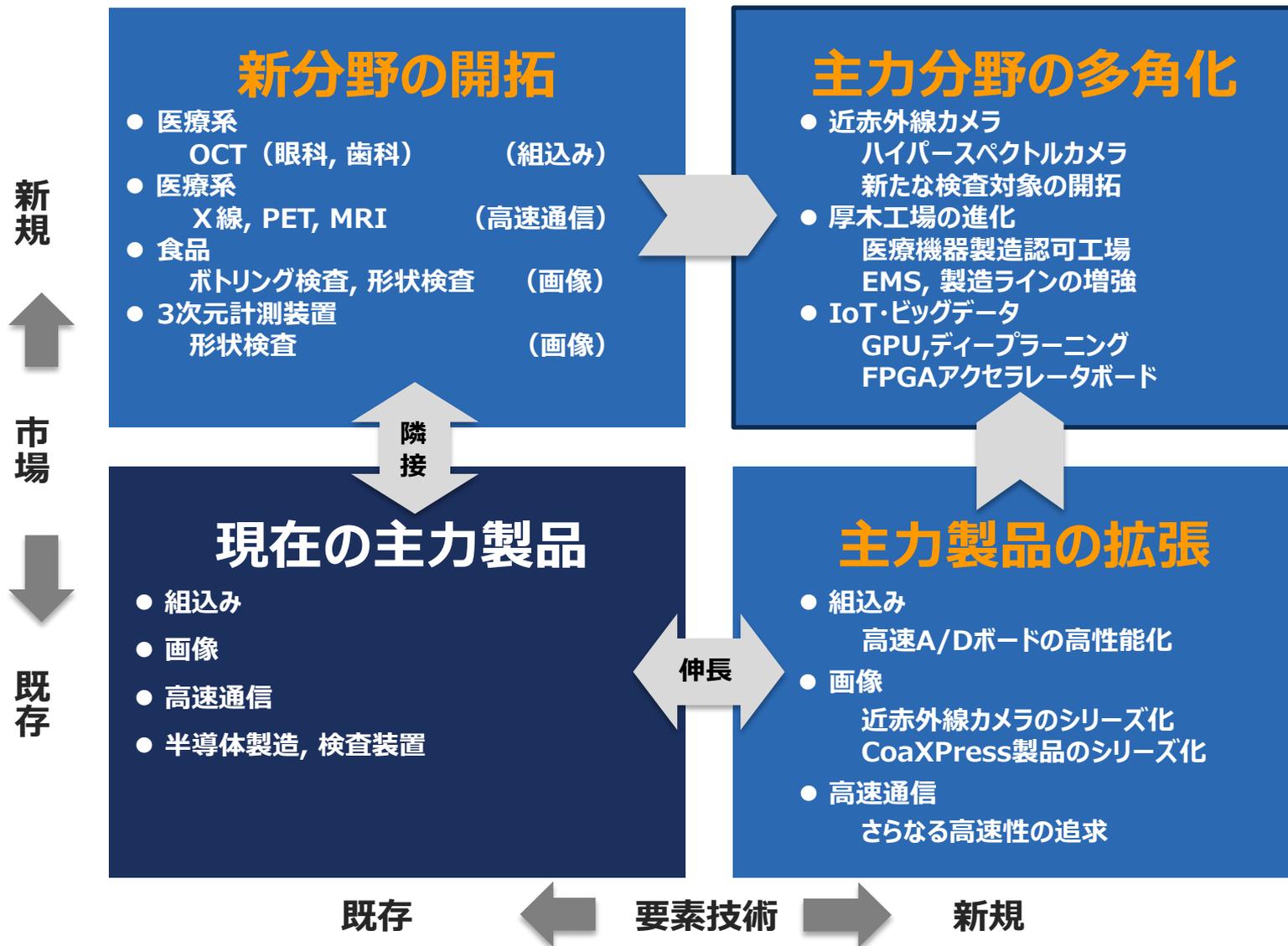


新しい分野

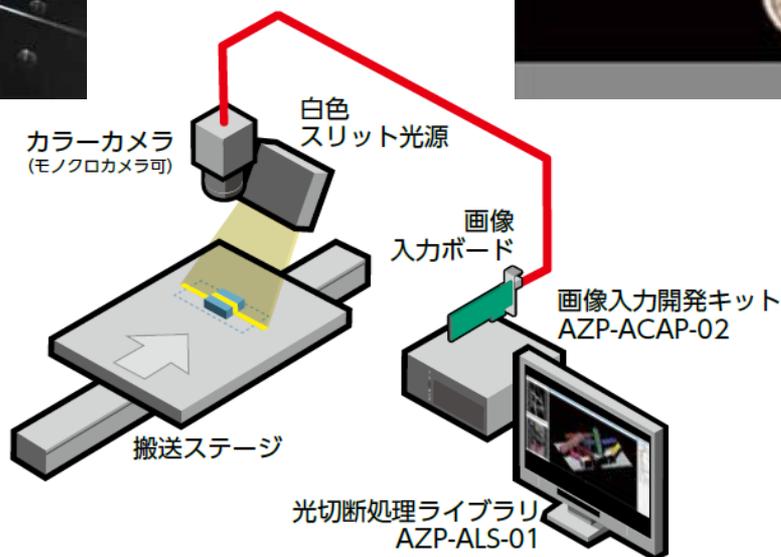
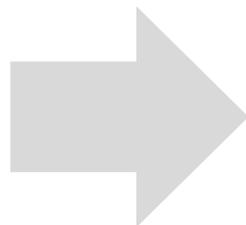


35% → 45%





カラー光切断法アルゴリズムのFPGA化によりCPU負荷なし

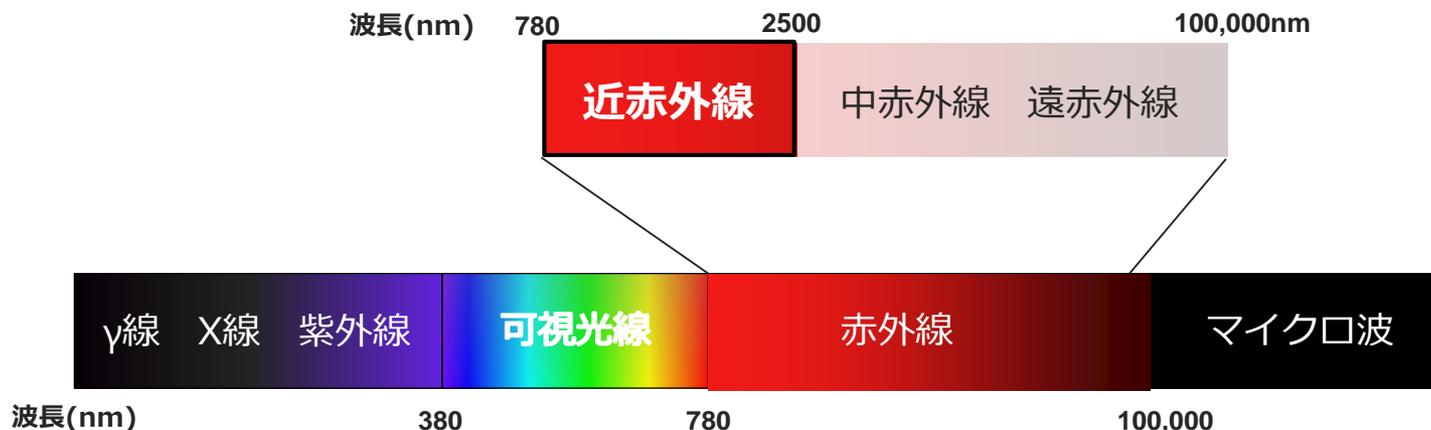


近赤外線の特徴

見えないものを、見ることができる

- ・ 可視光線よりも波長の長い光で、一般的なカメラではとらえることのできない光
- ・ 被写体の成分の違いにより見え方が変わる

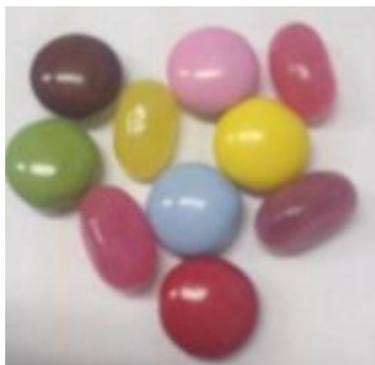
➡ 可視で識別の難しい物も、近赤外線では識別可能



近赤外線カメラの用途

可視では確認できない評価・検査

- 異物混入検出
- 農作物の痛み具合の選別
- パッケージの不具合検査
- 半導体（シリコンウェハやチップ）検査
- Etc . . .



カラーカメラ



モノクロカメラ



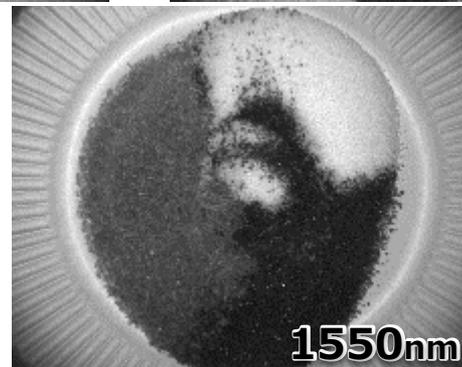
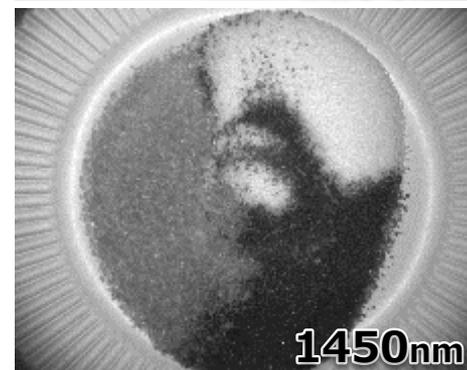
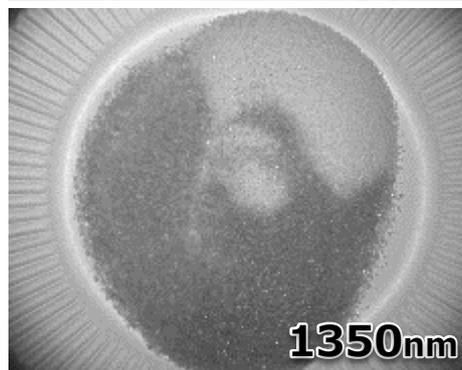
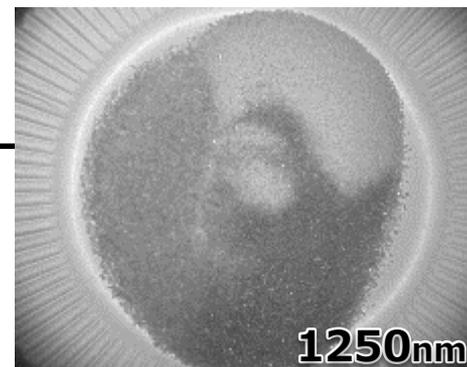
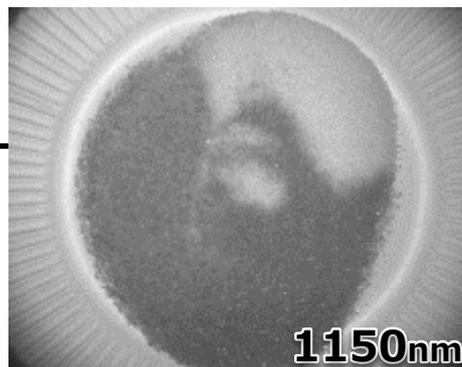
近赤外線カメラ

サンプル画像：同色粉末

混ざり具合を確認



可視

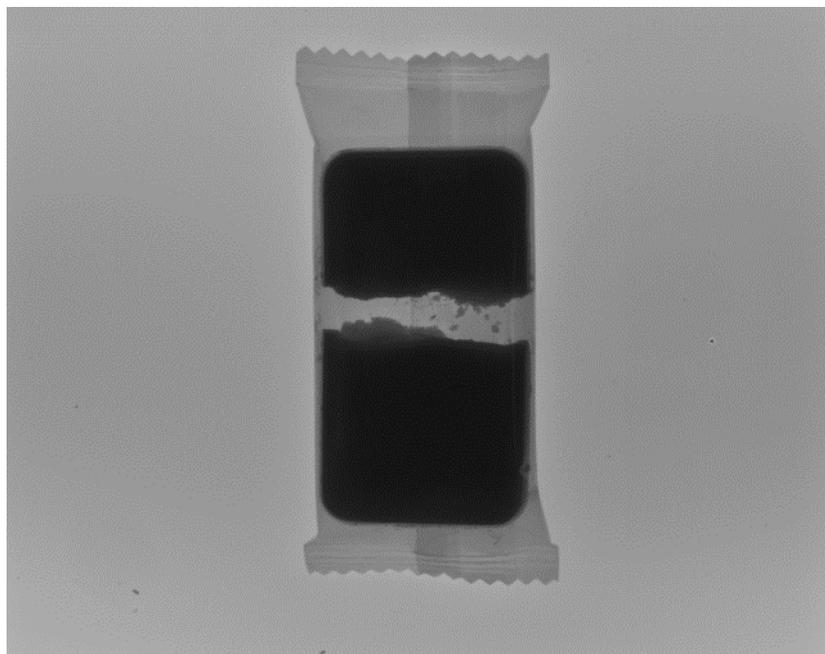


近赤外線

サンプル画像：食品包装

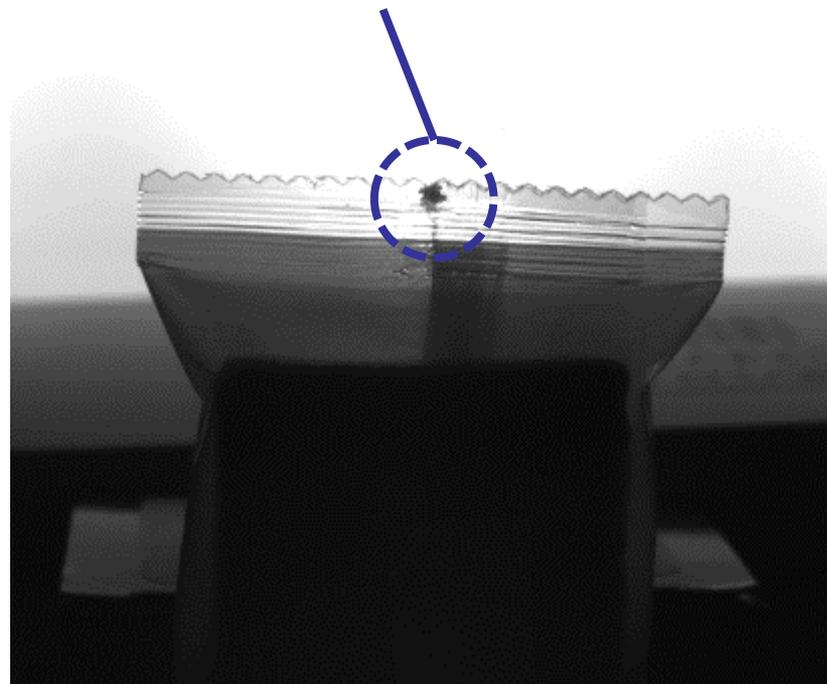
パッケージ内部や噛み込みを確認

内部破損



近赤外線

噛み込み



近赤外線

サンプル画像：屋外撮影

霞みがかった景色をコントラスト良く撮影



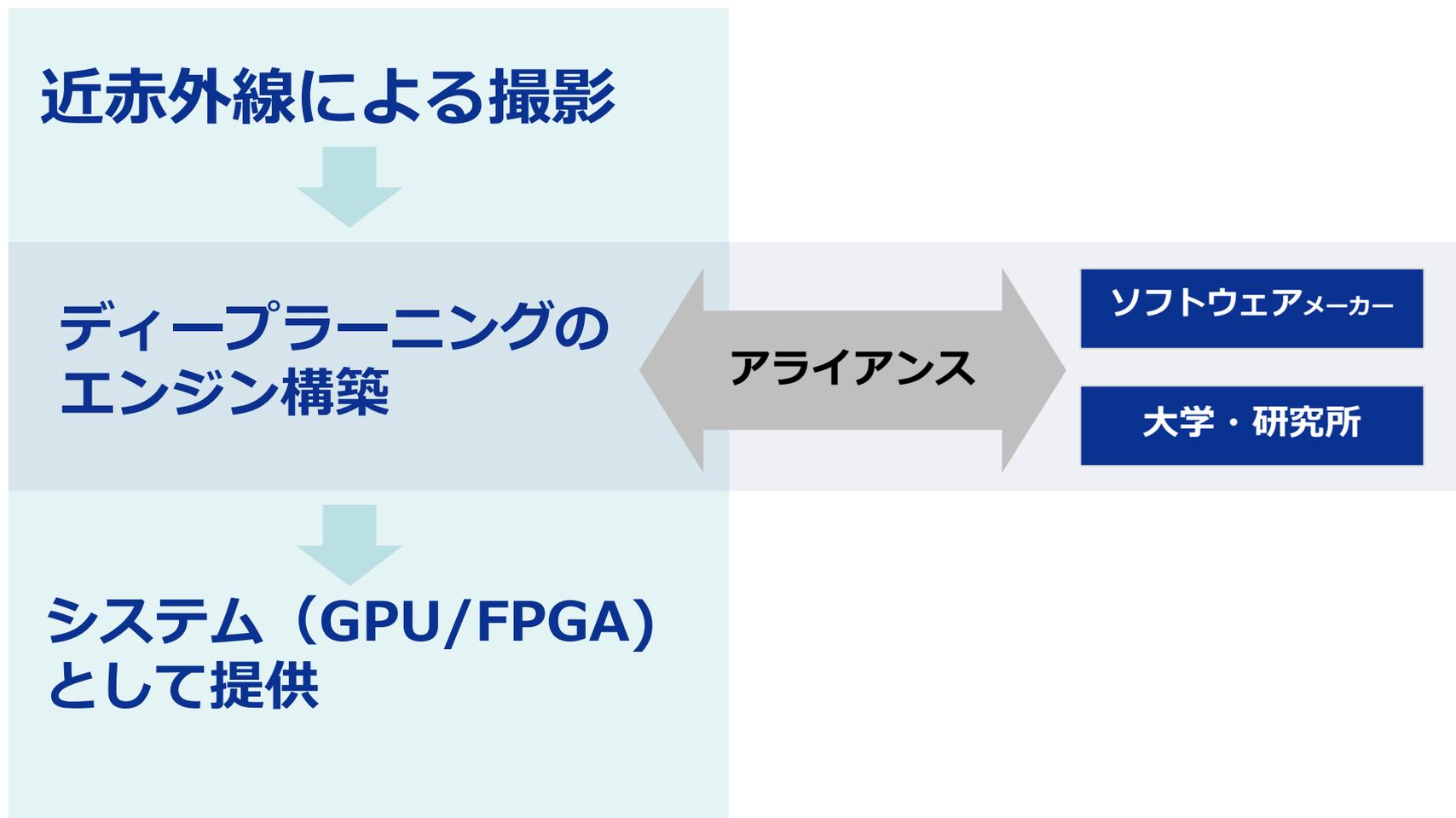
可視



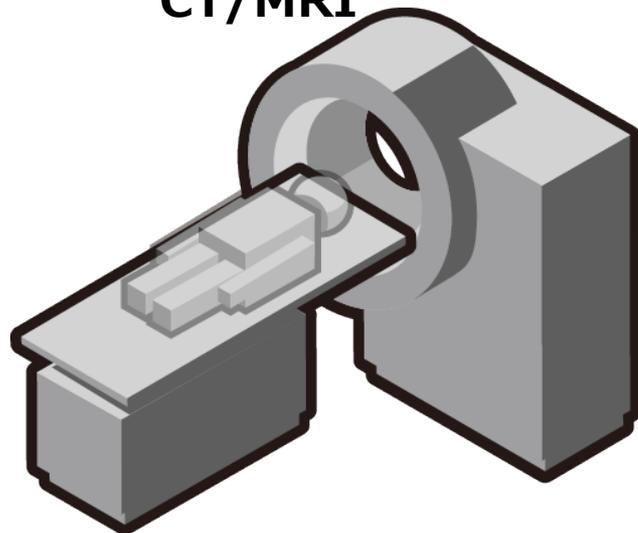
近赤外線

AI・ディープラーニングの活用

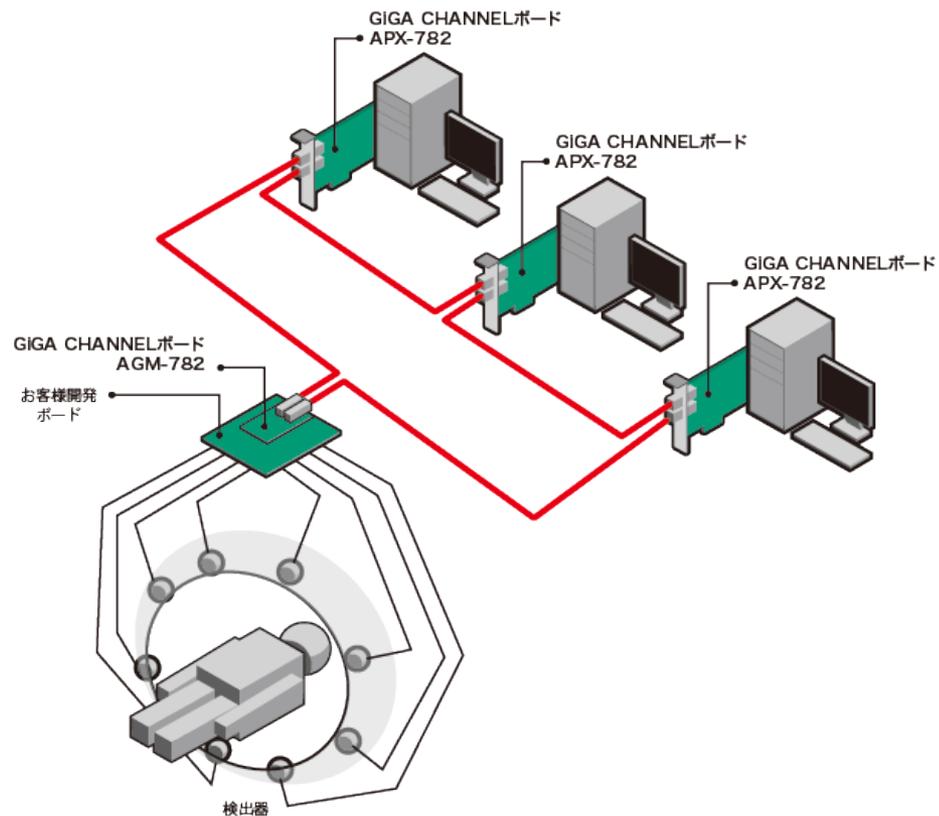
ディープラーニングを使った自動検査



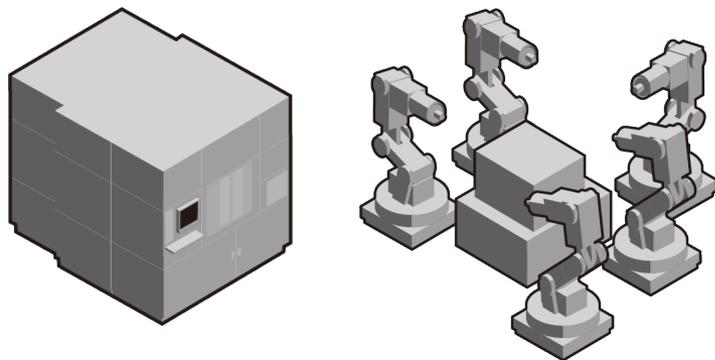
CT/MRI



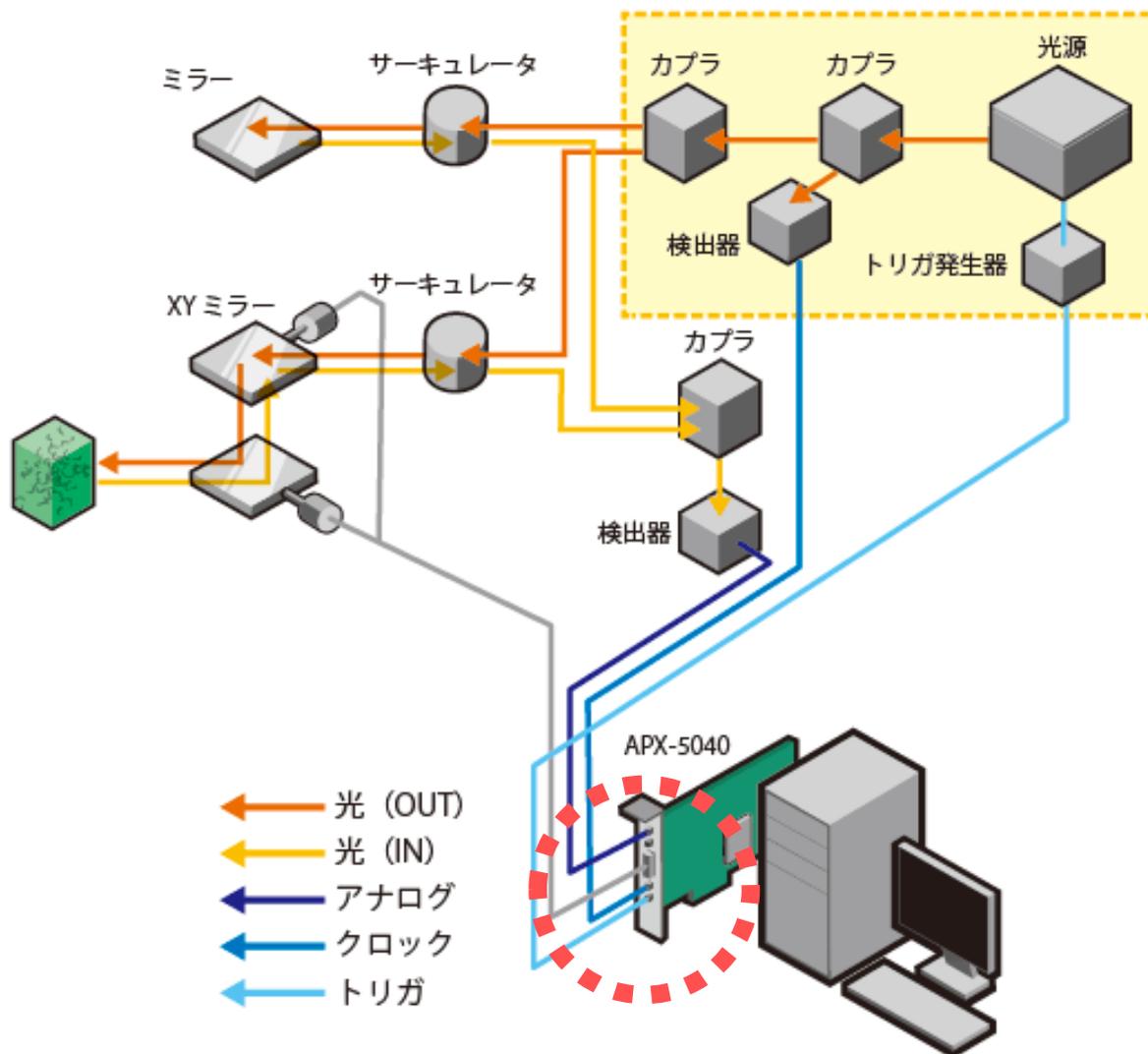
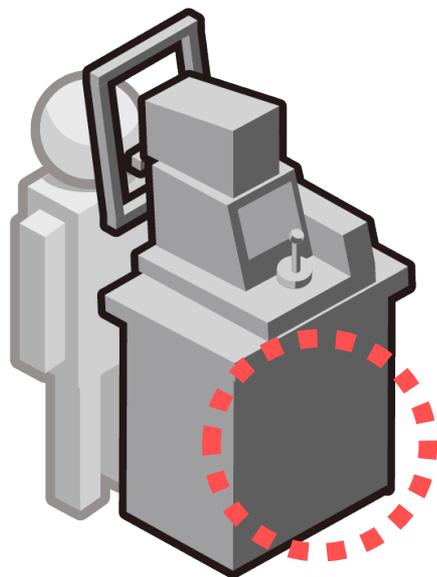
医療装置



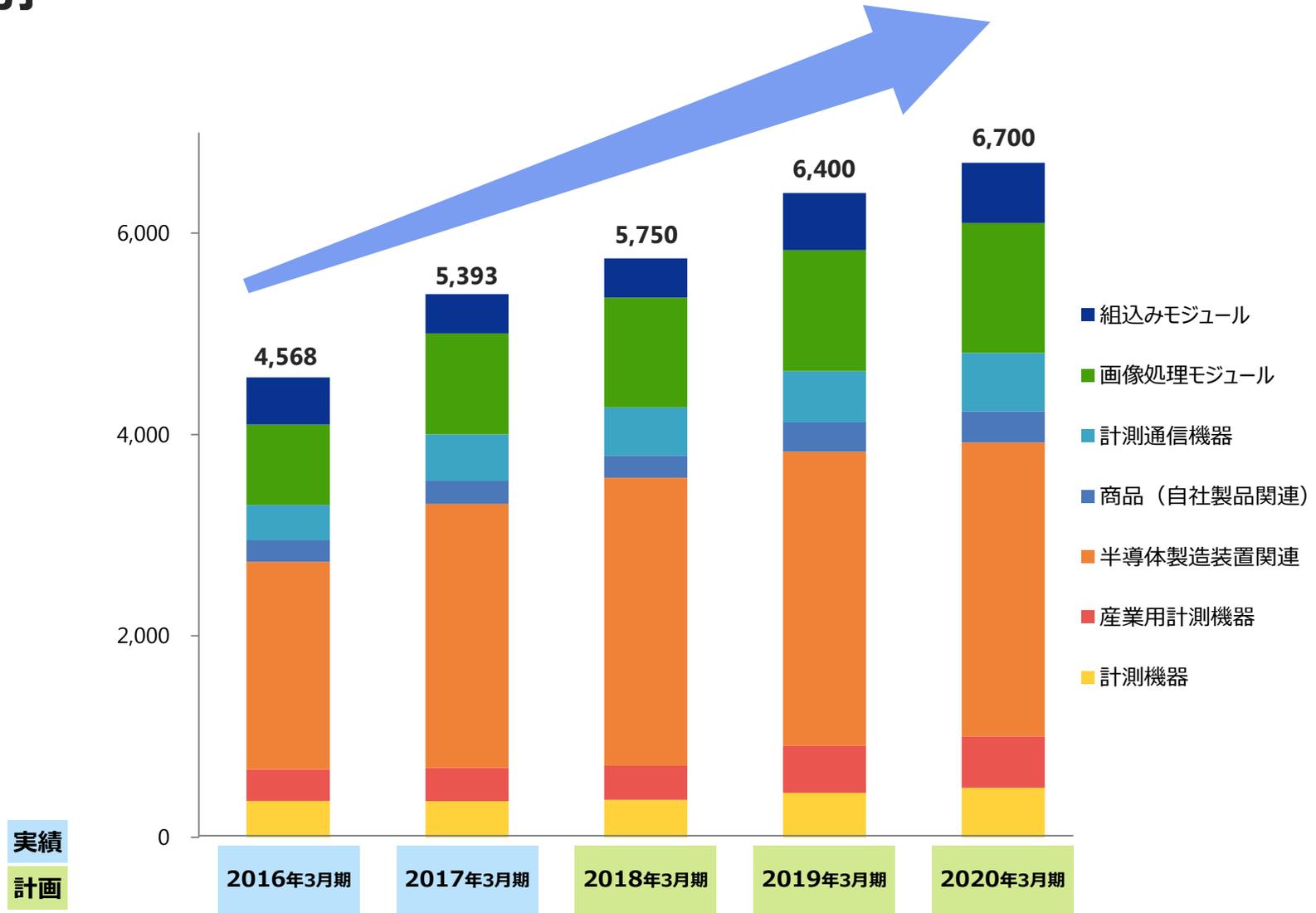
製造装置



医療装置・OCT



個別



新たな飛躍

成長事業の確立（新分野への挑戦）

近赤外線・医療・IoT・ビッグデータ

体質強化（スリムな企業体質）

少数精鋭・協業パートナーとの連携強化

生産性の拡大（微細化、多品種）

EMSの確立・生産システムの最適化

売上

67億円

経常
利益率

14.5%

ROE

8%

配当
性向

35%

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等は、本資料発表日現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に関わる仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値とは異なる可能性があるため、本資料のみに全面的に依拠することは控えていただきますようお願い申し上げます。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。